



平成27年 7月15日

8面	7面	6面	5面	3面	2面
公民館を閉じる会・視点・	部奈地区公民館研修旅行	こどもの詩・川柳	まつかわ大学	みんなの宝	主張・1日体験講座 公民館の歴史



「さくらんぼ」(紅秀峰)

思わず胸に飾りたくなるルビー色の輝き。(堤原・大石農園にて)

今年、当院は松川町に移転して40年を迎えました。下伊那赤十字病院は、下伊那郡町村会および地元の要請により、昭和24年9月、旧鼎町(現在の飯田市)に下伊那日赤診療所としてスタートしました。戦後に小さな診療所としてスタートした日赤ですが、その後、病院として128床にまで増床し、病院での診療に加えて、災害時には医療救護班を派遣したり、近隣の集落へ移動診療をするなど、地域医療の一端を担ってきました。

そして、昭和50年5月に現在の場所に移転してきました。当時、松川町には大型病院がなく、無医地区も存在するなど、駒ヶ根市と飯田市に挟まれた「医療の谷間」と呼ばれていたようです。

また、松川インターチェンジの開通を控え、救急対応も可能な総合病院が必要ということで、松川町ではこうした病院の誘致活動を長年にわたって行っているところでした。

その頃、当院も建物の老朽化が進んでおり、手狭になった病院を増改築する必要性に迫られていました。自己資金

主張

下伊那赤十字病院松川町移転

40周年にあたって

で病院敷地を取得するなど努力を続けてきましたが、それでも十分な用地を確保するには困難な状況でした。そんな折に松川町から誘致の話を受けたとき、病院敷地の寄贈を受けて移転することになったわけです。

当時、飯田市周辺には独立開業する医師が増え、医療過多の傾向にあったようです。移転にあたり、当時の院長は「医療過密の飯田市周辺を抜け出し、本来の赤十字病院の機能を十分に発揮できる松川町に移転できて、地元の方々に感謝している。」と述べています。

開院を伝える新聞記事では、「松川町への総合病院建設は地域住民の長年の悲願」との表現もあり、とても期待されていたことがわかります。これは、本当にありがたいことです。

その後、平成5年に入院環境の改善等を目的に南棟を増築、平成11年に訪問看護ステーション、平成12年に療養病棟を相次いで開設し、平成21年には健診センターを整備するなど、時代に合わせて急性期から在宅支援まで、一貫した医療・介護を提供する複合施設

続きは2面へ

主張の続き

設として地域に貢献できるよ
う施設や機能の充実に努力を
重ねてきました。

しかしながら、すべてが順
風満帆だったわけではなく、
地域における医療需要の変化
や恒常的な医師不足（これは
当院だけではなく、全国的な
問題ですが）など、加えて診
療報酬の改定は厳しくなる一
方で、皆さまにご迷惑をおか
けしながら、そして皆さまの
支えにより、何とか現在まで
地域の病院として医療を提供
してこられましたことに、改
めて多くの皆さまに感謝を申
し上げる次第でございます。

本年5月に開催した病院祭
では、移転40年を記念し
て、これまでの40年に感
謝し、更にこれからの未
来に還元していくことを
主旨として、例年行っ
ている無料検査などに加え
て、子どもたちを対象に
医療職の体験コーナーを
設けました。本物のメス
や内視鏡を使った医師体
験、聴診器での看護師体
験、調剤を行う薬剤師体
験などを通じて、未来の
地域医療を担う人材育成
の一環、と言うと大げさ
ですが、将来の職業選択
の一助にしていたたくよ



移転当時の日赤病院（昭和50年）

うに工夫しました。
職員一同、この移転40年を
機会に、当院がたどってきた
歴史やその経緯などを振り返
り、病院の増改築等を視野に
入れながら、皆さまの期待に
応えられるよう、心を新たに
したところです。
そしてこれからも、安全で
いつでも笑顔のある明るい病
院、患者さん中心の優しさ
思いやりのある医療を提供す
るなど、地域の皆さまに愛さ
れる病院づくりを推進してま
いる所存です。
今後とも皆さまのご指導、
ご鞭撻を賜りますようお願いし
くお願いいたします。
下伊那赤十字病院 院長
網野 章由

1日体験講座のお知らせ

新しい公民館を多くの方々に利用していただくためのきっかけ作りです。仲間と体験してみませんか？

8月22日(土)

場所 中央公民館(旧北名子保育園)

	講座名	講座の内容(講師)	定員	会場
午前9:00~ 12:00	江戸木見込を知ろう	必要な道具、材料、完成品を見たり、お話を聞いたりします。 (江戸木目込みクラブ 早川静子)	—	学習室2
	囲碁をはじめませんか	囲碁のこと、打ち方等を教えてもらいます。(囲碁同好会)	10	学習室3
	俳句でいきいき	感性を育み、認知症防止のためのいきいきわくわくする俳句づくり。(鋤柄郁夫)	15	学習室4
午後13:00~ 16:00	塩ビ管尺八にチャレンジ	音の出やすい尺八でなつかしい曲にチャレンジします。(小原捷次)	15	大会議室

8月23日(日)

	講座名	講座の内容(講師)	定員	会場
午前9:00~ 12:00	絵本のよみきかせ	「よみきかせ」の基本を学び、声を出して絵本を読みましょう。 (ノンタンの会 田中ふじえ)	20	学習室1
	身近な彫刻・楽しい彫刻	粘土や石膏などを使って、思い思いのオリジナルの作品作りをします。(伊波文三)	6	学習室2
	初級囲碁講座	松川囲碁同好会の紹介 自由対局と指導(囲碁同好会)	10	学習室3
	パンダ子パンダ	音楽を聴きながらママと一緒に楽しく遊ぼう。対象2~5歳児(市岡ゆき子)	10	学習室4
午後13:00~ 16:00	お箏を弾いてみましょう	さくらさくらや童謡などを楽しく弾いてみませんか(澤田明美)	10	大会議室

9月5日(土)

	講座名	講座の内容(講師)	定員	会場
午前10:00~ 12:00	狼煙体験	郡南部で打ち上げ、郡内、上伊那へとつなげていく狼煙リレーに参加。狼煙をつくり、あげます。(町公民館)	30	台 城

9月13日(日)

	講座名	講座の内容(講師)	定員	会場
午前9:00~ 12:00	魅力ある水彩画	身近にあるモチーフ(花・果物・器物等)と向き合い手軽な水彩絵の具を使って表現を楽しみます。(大沢 徹)	10	学習室2

- ・ 講座の詳しい内容は、7月全戸回覧で見ていただくか、公民館に講座案内がありますのでご利用ください。
- ・ 参加費は無料ですが、材料費が必要となる場合があります。
- ・ 参加申し込みは8月1日から15日まで中央公民館へお願いします。TEL36-2633

公民館の歴史③ 町のスポーツ・文化の 中核センターとしての役割

当時の建設、改修の歩み

年 号	経 過
昭和60年(1985)	4月に町民プールが完成する。 町民体育館が、町民のスポーツ志向の広まり等から1年繰り上げて8月に着工される。
61年(1986)	3月に、当時郡下最大規模をもつ町民体育館が完成する。
63年(1988)	11月には体育館南隣に弓道場が完成する。
平成元年(1989)	公民館の外装・内装の改修。下足化から上履き化に変更される。 正面玄関の右側を自動ドア化、ロビーに車椅子用のスロープが設けられる。 「松川町中央公民館」の看板が掲げられ、中央公民館の呼び名が定着してくる。
2年(1990)	図書館・資料館の用地に予定されている公民館に併設されていた体育館の解体が行われる。
3年(1991)	5月に図書館・資料館の竣工式が行われる。
7年(1995)	全館において(事務室は除く)、冷房施設の使用が開始される。
8年(1996)	隣接する図書館・資料館との接続工事を行い、1・2階ともに両施設とつながり、公民館と図書館・資料室が一体化した。

町民体育館、そして図書館・資料館と相次いで建設

え、当時、社会はバブル期を迎え、経済はうるおい活気のある

る状況でした。そんな流れと社会教育施設を望む住民の声を受け、諸施設の建設、改修が進みます。

昭和61年に町民体育館が

昭和50年代後半の館報では、社会教育施設に関わる内容の記事が多く見られます。当時の社会教育施設であった公民館、運動場、体育館について様々な意見が寄せられたようですが、運動施設の利用のしかた、郷土の歴史的资料を展示し保存する場所や各サークル活動に応じた設備のある場所がないことに集中しています。また、近隣の町村と比較して施設の設置が立ち遅れているのではないかとという声も聞かれます。

当時の編集部は、近隣町村の施設の状況をルポして、「ほしい、こんな施設、町民の声」を館報に載せ、将来の具体的なプランを提案しています。

5年後の平成3年には図書館・資料室と、大型施設が相次いで建てられました。また、昭和60年には町民プール、63年には弓道場も完成しており、5年余という短期間に、大小の社会教育施設が5つ建設されたわけです。

他市町村も様々な社会教育施設が建てられました。松川町が他と比べて、違うことは、同じ敷地内に公民館、体育館、図書館、資料館等6施設が建てられており、注目されました。

さて、建設された図書館・資料館については館報(321号平成2年)では次のように報じています。

建物は鉄筋コンクリート2階建。延べ床面積2200㎡で近隣町村のそれと比較して最大のものとなる。設備的にもコンピュータを導入して貸し出し、返却の処理を行った。図書館は全館冷暖房完備であるし、資料館も一部冷房が設置される。年間を通じてうれしい設備だ。また身障者用トイレが1階2階とも設置されるし、エレベーターもあって配慮

がなされている。……とにかく、とりかかりが遅かった分、最新鋭の設備がされている。



新しい体育館で盛況にママさんバレー

建設された建物の大きさは、当時郡下でトップレベルであることがわかります。

コンピュータによる本の貸し借りの仕事、冷暖房完備等最新の設備が施された、文面にあるようなうれしい設備になっています。また、身障者トイレ、エレベーターなどバリアフリーに配慮した当時としては温かな設備も含まれています。

松川町は近隣の町村に比べ社会教育施設の建設が多少遅れ気味であったようですが、一気に建設を進め、他に誇れる文化・スポーツ活動の場が充実整備されました。

公民館を核に 諸施設がつながる

公民館（福祉センター）は建設され15年近く経たこともあり、施設建設と並行して、様々な改修が行われました。外装・内装とともに、自動ドア、冷房施設等最新の設備の設置、そして、バリアフリー化が行われています。

また、図書館・資料館が建設された5年後に、公民館と図書館・資料館をつなぐ工事が行われ、すでにつながっていた体育館と公民館の通路はバリアフリー化がされました。このような一体化が図られたことに対して当時の館報(387号 平成8年)は「生まれ変わる公民館く住民活動の拠点



新設された図書館

として」という見出しで、次のように思いを熱く報じています。

町の中央公民館と図書館・資料館との接続工事を、行い、より使いやすい施設になると共に、町民体育館と中央公民館との間の渡り廊下もスロープがつき、障害者の人たちにも利用しやすく変身する。
この3施設が一体化することにより、今まで利用の少なかった施設が利用されることにより、公民館のもつ本来の意味の地域住民活動の中核施設として、多くの方に利用していただきたい。

現在も公民館の講座に参加された親子連れが図書館で本を借りたり、資料館に用事があつた方が図書館に寄られたりするなど、来られた方々が、多目的に利用されています。松川町は、図書、歴史、スポーツ、公民館等、多目的で広角的利用の機能をもった社会教育の中核的なゾーンをつくり上げました。このことは、他に自慢できることではないかと思えます。

施設整備をさせて頂いて

元中央公民館 主事 下平 勉久

昭和40年代の社会教育活動は幅広く活発でした。体育活動の場所は福祉センター（中央公民館）の講堂・グラウンド以外は、学校や企業の施設を使用させて頂き、夜間照明付グラウンドは3ヶ所だけで、更なる活発化のなかで施設要望が強く出されてきました。

図書館は蔵書の量が多く展示場所が不足し、更に資料室も手狭となり、雑庫には図書と資料も置ききれなくなり、新施設をどこに作るかが、大きな課題となりました。

昭和60年の10月から、残してほしいと要望のセンターグラウンド跡地に、ご理解を頂いて、いよいよ町民体育館の建設が始まりました。体育館は、広いアリーナと、トレーニン

グールムには250席の電動可動椅子席を付けて文化活動にも使用可能にし、専用の柔・剣道場や体力相談室を整備しました。

図書館・資料館、文化ホールは、管理上施設を福祉センター付近にするのが良いと云う事になり、休館日も使用しているグラウンド施設を、新たに松川端に新設して、まず福祉センター近くに社会教育施設を作れる用地の確保に努めました。前の駐車場を広め更に、東側に歩道橋で渡れる様にして中央小高学年使用のプール

最後にセンターを中央公民館に改修して、一体的に管理

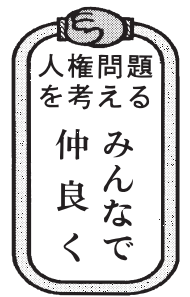
出来る様に図書館・資料館と体育館を渡り廊下等ではないで完成しました。併せて近くに弓道場を整備させて頂き大業でありましたが、多くの皆様にご協力を頂いての完成に今でも感謝しております。



資料館の常設展示



全ての施設をつないだ渡り廊下



松川中学校

松川中学校の2年生は、6月2日に信州探訪という学年行事があり、長野市の松代大本宮と上田の無言館を訪れ、戦争と平和について考えてきました。2年生の感想です。

* * * * *

「平和」なんていつ壊れるか分からないし、未だに戦争をしている国だつてあります。でも、これからの時代をつくっていくのは私たちです。私たちが平和な未来をつくっていくかなければいけません。今回、色々な面から戦争について学び、「こんなことは二度と起こらないでほしい」と思ったことを忘れずに、身近な平和について考えていきたいと思います。

* * * * *

平和を守るために大切な場所に行きました。戦争で得することなんて何もありません。ちよつとがまんしてみたり、相手の意見に共感したりして仲良くすることが大切だと思

います。まず、自分の意見もちゃんと言わなきゃ自分になくなつてしまうので、自分をもつていることも大切です。戦争は絶対に繰り返さない。自分のまわりの小さな戦争もなくしていきたいと思います。

* * * * *

1日を通して、一番印象に残っている言葉が「平和は当たり前じゃない」という言葉です。大本宮を見学している時、ガイドさんが言っている時、ガイドさんが言っている時、少しでも政治が狂えば今すぐにでも戦争が始まる世界です。昔よりも兵器などが進歩して国一つが簡単に滅びるものもある時代です。平和をつくっているのが私たち一人ひとりの行動や言動だと思います。何人も犠牲になつてしまい、何人も人が辛い思いをする戦争は二度と起こすことではないと思います。今回の平和学習、信州探訪で学んだことを後世に伝えていけるようにしたいです。武器を使用する戦争だけでなく、言葉で人をいじめるようなこともないようにしていきたいです。

松川町の指定文化財 第2回

今回は生田部奈地区の「前田遺跡配石遺構」を紹介しました。

生田部奈にある縄文・弥生時代および平安・江戸時代の複合集落遺跡です。部奈段丘は生田地区に発達した中位段丘として唯一の大規模な段丘地帯で、天竜川と小渋川の複合作用によって四段にわたって形成されています。その最上段に前田遺跡があります。昭和58年、農村整備モデル事業の一環として遺跡の発掘調査が行われ、縄文・弥生時代の住居跡15軒、縄文時代の配石遺構をはじめ多くの遺構・遺物が検出されました。



若宮社の石棒

前田遺跡を代表するものとして、約4千年前の縄文中期末から後期にかけての「配石遺構」があります。小渋川や天竜川から運び上げた河原石を、目的をもつて配置したり、組合せたりして、円形や直線に並べた墓と思われる多くの穴があり、内部からは副葬された土

器や焼けた骨片が出土されています。配石遺構には様々な考えがあるようですが、墓穴とみられるものを伴う例が多いことや、その地域の中心的な所で、なおかつ景色が美しく望める場所に造られていることが多いことから葬送儀礼や祖霊崇拜に関わる共同祭祀の場であつた可能性が高いと考えられています。発掘の際に配石部分から男根状の石造物（石棒）女性の身体を表した土偶の一部が出土されています。石棒は配石遺構近くの「若宮社」に奉納されています。



前田遺跡配石遺構は部奈高齢者クラブの皆さんにより「前田遺跡保存会」として清掃を始め、見学する環境を整

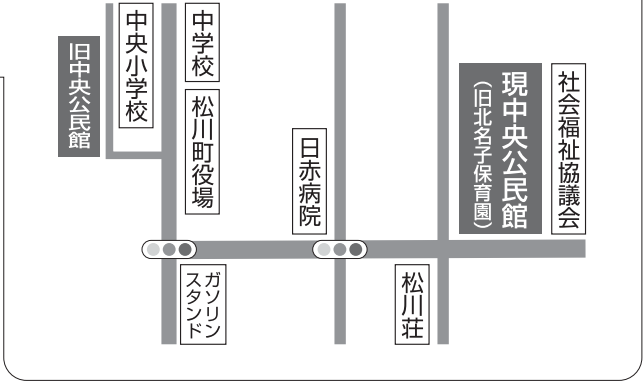
備し、36名の会員の皆さんで協力し合いながら活動しています。

今年度会長の唐沢重人さんは「先祖の遺してくれた貴重な文化遺産を地域の皆が一丸となつてこれまでずっと守り続けてきた、その気持ちはこの地に住む者の責務として今後も若い世代に引き継いでいきたい」とお話ししてくださいました。6月下旬北海道から縄文時代の文化にロマンを感じ全国の遺跡巡りをしている60代の男性の方が見学に来られました。後日電話があり、整備されている環境に驚き、「地域の方の遺跡に対する気持ちを感じ取られ、美しい景色と共にこの地に縄文人が住んでいたことを不思議と実感しました」と言っておりました。

松川町中央公民館が移転しました

松川町中央公民館は、改築に伴い6月をもって閉館となりました。
 新公民館完成までの間、旧北名子保育園に公民館機能を移し開館します。なお、体育活動関係事務につきましては、町民体育館事務室に移転しておりますので、お間違えのないようお願いいたします。
 また、図書館・資料館につきましては、通常どおり開館しております。
 詳しくは、下記までお問い合わせください。

- 施設受付
 - 中央公民館（旧北名子保育園）・・・月～金曜日（水曜日・祝日を除く） 8：30～17：15
 - 町民体育館・・・月～金曜日（水曜日・祝日を除く） 8：30～17：15
 - 土曜日（祝日を除く） 8：30～12：30
 - 役場こども課・・・水曜日（祝日を除く） 8：30～17：15
- 一斉受付
 - 8月より中央公民館（旧北名子保育園）で行います。※次回は8月1日（土） 7：45～
- 運動施設用具受け渡し
 - 運動公園グラウンド・テニスコートの鍵、小中学校体育館の鍵、照明用コイン等は、町民体育館にてお渡ししています。
- お問合せ先
 - 中央公民館（旧北名子保育園） 電話：36-2633
 - 町民体育館 電話：36-2622



人形劇がやってくる!



平成27年 **8月9日** ◆開場／9：40 ◆開演／10：00

場所：松川町民体育館 トレーニングルーム
 お問合せ：松川町中央公民館 TEL36-2633

暮らしの知識を学ぶ講座

— 第1回 介護福祉の基礎知識 —

日時：平成27年8月27日（木） 19：00 ～
 場所：中央公民館（旧北名子保育園） 学習室
 内容：介護福祉保険制度や町内の介護施設についての解説・質疑応答

いつ、自分が介護する立場になるか、介護される立場になるかわかりません。
 万が一に備え、介護についての基礎知識や介護予防について学びましょう。

お問合せ先：中央公民館 電話36-2633

まつかわ大学・第10期の第1講座が6月13日(土)町民体育館トレーニングルームで開かれました。

今年度、果樹栽培100年というところで多くの記念事業が計画されていますが、そのなかの一つにもなっています。

「農業ルネッサンス ～不可能への挑戦～」と題して講演してください。

木村 秋則さん。

木村さんは、世界で初めて無農薬のリンゴ制裁に挑戦、約10年をかけた成功されました。

「奇跡のリンゴ」と呼ばれるそのリンゴ作りの記録がテレビで特集され、その反響の大ききから映画にもなりました。テレビなどのマスコミで有名な俳優、女優さんが多数出演し、ご覧になられた皆さんもいらつしやるでしょう。

木村さんは、スーツ姿でしたが穏やかな口調、静かな物腰がすぐその畑に居る「おいさん」という感じの方。

会社員をしていた木村さん。婿養子に入って家業のリンゴ農家を手伝うようになり…。

その頃、義父より農業と肥料を使わずにリンゴを作ってみたらどうか、と言われたそう。知識の無い私でも、害虫は？病気は？どうするの？と考えてしまいますが…。やはり周囲の風当たりはとても強く、迷惑だ!!何を考えているっ!!と顔を見るたび言われたとか。又、最初は収穫するリンゴが

たそうです。

「家族のことを考えてやめろ」

「いつか実るので続けろ」

木村さんは後者の声に従ってついに10年を経て成功します。

専門的なことは著書でご覧いただくとして、作物を作る時、必要なのは太陽と土と水。プラス生産者の愛情。作物を作っているのは作物自身であり、私は育つのに必要な環境を整えるお手伝いをするだけだと木村さんは言われます。作物は生産者の愛情を待っています、とも。

奇跡のりんご



無いため、飽食日本で1円に困る、という無収入の時もあり苦しいアルバイト生活を続けられたそう。まるで、1本の木に家族を乗せて太平洋に漕ぎ出したようだ、と言われた木村さん。その頃、いつものなかに二人の声が聞こえ

木村さんに困難なリンゴ作りをすすめたお義父さんはじめ、家族の皆さんの協力、後押しは絶対的な力になったことでしょう。

木村さんの作物作りのお話しは、子育てにも通ずるところがあると母である私は思いました。

300余名の県内外からつめかけたみなさんにとって、多くの意味でも実のある有意義な講演になったと思います。

こころの詩

大切な友達

北小6年

宮澤 快成

ほくにとつての友達とは、辛いときに支え合える存在だ。

ほくにとつての友情とは、ただの仲良しではなくケンカをしても「何であんなことを言ってしまったのだろう。」

また会いたいなあ。」と思わせる

相手とのつながりだと思おう。ほくは、相手が言ったことに対してはつきり思いを伝えるように心がけている。

高め合い、支え合う友達になれるように相手の思いを考えていこう。

友達

北小6年 村田 瑠璃花

私にとつての友達は、ただ仲が良いだけでなくいろいろなお話を聞いてくれる人だ。

私は友だちと関わる時に自分の意見を

はつきり伝えることを大切にしている。

ただいっしょにいて話を聞いているだけだと楽しくないし、いっしょにいる意味がない。

私にとつての友情とは助け合えることだ。助け合える人がいれば心強くなるから。

高め合い、支え合う友達がクラスの友達だ。

川柳

熊谷 正子

六月の雨をもてなす

ミニ菜園

足早に

歴追えども

跳べぬ膝

横向いた

ままで笑って

くれる箸

叶うなら

痛み分けたい

娘の病

信じ合う

絆で生きて

いる安堵

毎月第3日曜日は
家族ふれあう
「家庭の日」



今月の公民館

サヨナラ公民館



松代学びの旅

部奈地区公民館 研修旅行



6月21日、部奈地区公民館の研修旅行として、長野市松代、大本営地下壕を中心とした地域に行ってきた。今年には戦後70年ということで、「15年戦争とは何だったのか」を考える一助となればと計画しました。生憎の雨降りではありましたが、多くの方が初めての体験ということでしたので、地下壕保存会の方にガイドをお願いしました。

何故松代だったのか、規模の大きさから動員された人数は日本人を含め1万人を超え、小学生まで動員されたこと、朝鮮半島からは強制連行を含め、6・5000人がこの仕事に従事させられたこと、現在のような大型重機がない中総延長10数kmの壕を掘るとい

現公民館を閉じる会

重労働から故郷を思い出して壁に書かれた文字なども紹介されました。壕の中のポイント、ポイントで熱のこもったお話しをしてくださいました。戦争末期に立てられたこの計画遂行のために敗戦濃厚

これまでの中央公民館が改築となり6月30日をもって閉館となりました。新しい公民館ができるまでの間、旧北名子保育園を中央公民館として利用しています。

これまでの中央公民館の建物に感謝し、お別れをする「現公民館を閉じる会」が6月21日に行なわれました。60人ほどが参加し、44年にわたる歴史を偲びました。

記念講演として、昭和36年から約24年間、公民館主事をされていた松下拡さんにお話していただきました。公民館が単に集会の場としてあっただけでなく、いかに自分たちの生活を豊かにしていこうかと考えた場であったこと。はじめは小さかった活動が、数十年も続けられている活動と



現公民館を閉じる会

元公民館主事 松下

だった沖縄戦が引き伸ばされたという話は初めてのことであったのでショックを受けました。

この他に善光寺、真田宝物館なども見学しましたが、大変有意義な1日となりました。

なっていることなど、公民館の役割・大切さが改めて見えました。

公民館の建物が新しくなるだけでなく、これからも活発に利用していくことを考える機会となりました。

◎2022年

1年に1回のお楽しみ。公民館社会部主催の「人形劇場」が8月9日(日)10時から町民体育館トレーニングルームで開催されます。今年は昨年に引き続き愛知県から「人形劇団ばんび」の皆さんがやってきて、のんびりやお姫さまとせつかちじいやの痛快時代劇「一大事でござる！」を上演してくれそうです。

なぜこの時期に人形劇？と思う方がいらっしゃるかと思いますが、毎年8月に飯田市で開催される国内最大規模の人形劇の祭典「いい大人形劇フェスタ」に合わせた企画として何年も続けています。

広域公演と銘打たれたこの公演は松川町だけでなく、高森町、大鹿村、喬木村、阿南町、下條村、阿智村、平谷村、根羽村でも行われており、地域全体で「人形劇フェスタ」を盛り上げるだけでなく、地域の未来を担う子どもたちが人形劇を楽しんだ思い出や感動を共有できるように、との思いが込められています。

今年の夏休みには公民館の人形劇公演はもちろん、8月4日から始まる「いい大人形劇フェスタ2015」にも足を運んでみてはいかがでしょうか。

(坂本美帆)

公民館報
「まつかわ」
第 621 号
平成27年 7月15日

発行所 松川町公民館
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部
Tel 36-2633
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。